

報道関係各位

(報道発表資料)  
令和5年5月22日  
北九州市保健福祉局感染症医療政策課  
(担当:河崎・奥)  
電話:(093)582-2430

## 細菌性赤痢の発生について

市内において、細菌性赤痢(3類感染症)の発生届がありましたので、北九州市感染症公表要領に基づきお知らせいたします。

- 概要** 令和5年5月19日(金)、医療機関(小倉北区)から細菌性赤痢の届出があった。
- 患者情報** 小倉北区在住、70歳、男性
- 経過** 5月15日(月) 東アジアから帰国。  
5月16日(火) 腹痛、下痢症状出現。  
5月17日(水) 発熱(38.4℃)あり、医療機関受診し、便検査実施。  
5月19日(金) 検査の結果、細菌性赤痢と診断。
- 現在の状況** 症状なし。
- 感染原因** 不明。
- 行政対応** 患者に対する健康調査の実施と感染拡大防止の指導を実施。

### 7 細菌性赤痢の北九州市への届出状況(単位:人)

(令和5年5月22日現在)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
発生届出数 (単位:人)	0	0	0	0	0	1*

(※本件を含む)

### 8 その他

- 患者の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。
- 本市においては、別添「《細菌性赤痢について》の予防のポイント」について市民の皆様呼びかけています。  
報道各位におかれても、別添「《細菌性赤痢について》の予防のポイント」の内容の周知にご協力いただきますようお願いいたします。

【予防のポイント】 別添参照

## 《細菌性赤痢について》

### ➤ 細菌性赤痢とは

細菌性赤痢は赤痢菌によって起こる感染症で、赤痢菌には、A 群(志賀赤痢菌; Shigella dysenteriae)、B 群(フレキシネル菌; S.flexneri)、C 群(ボイド菌; S.boydii)、D 群(ソネ菌; S.sonnei)の 4 種があります。

赤痢菌に汚染された水、食品などを摂取することによって感染しますが、少量の菌量(10~100個)でも感染することから、患者や保菌者の糞便、それらに汚染された手指、食品、器物等を介して直接、あるいは間接的に感染する場合があります。

日本で発生している細菌性赤痢の多くは国外での感染もしくは感染した人からの二次感染です。

### ➤ 症状

潜伏期間は1~5日(大多数は3日以内)で、発熱、下痢、腹痛を伴うしづり腹(便意は強いがなかなか排便できないこと)、膿・粘血便などの症状が起こります。

菌の種類によって症状の程度に差があり、A 群では血便やしづり腹があらわれることがあります。他の 3 種の赤痢菌では血便をみることはほとんどありません。特に D 群では症状が軽く、軟便や軽度の発熱、あるいは無症状に経過することもあります。

### ➤ 治療法

治療は、抗菌薬の投与、発熱や下痢等の症状に応じた対症療法を行います。

### ➤ 予防のポイント

- 手洗いの励行が基本です。
- 調理や食事前、用便後は必ず石鹼で手をよく洗いましょう。
- 赤痢は世界中どこでもみられる感染症で、特に衛生状態の悪い国に多くみられます。旅行中は、生水、氷、生ものは避けることが、重要な予防方法となります。

### ➤ 下痢、腹痛などの症状があるときは

- 安易に下痢止めなどを飲まず、早めに受診し、医師の指示に従いましょう。
- 特に、食品を取扱われる方は、調理業務への従事を見合わせ、受診してください。
- 症状のある方の入浴は最後にするか、シャワーの利用だけにしましょう。